

SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第75号(2009. 7. 10)

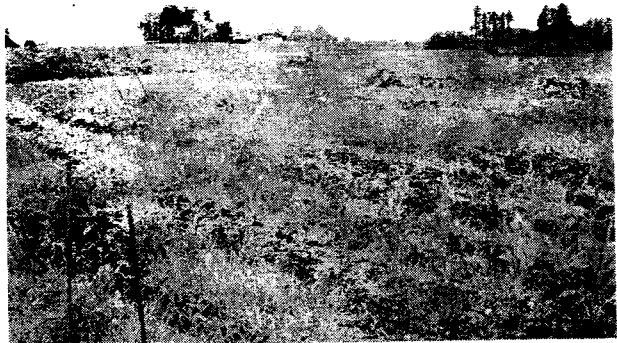
### はぐれ雲を見学して

栃木ダルク宇都宮OP 栃原晋太郎

今年は梅雨らしくじめじめとした蒸し暑い日が続いておりますが、皆様におかれましてはいかがおすごしでしょうか。

ここ数年、ダルク利用者の2次病患が社会復帰を難しくしているという話を様々なダルクで聞きますが、栃木ダルクでも同様に、利用者の質が急激に変化してきているのが実情です。高齢アルコール依存症者の増加、統合失調症や発達障害を抱えた仲間が急増しています。こういう仲間たちは、栃木ダルクでプログラムを終えることも大変困難ですし、本人たちが投げ出さずに長い時間をかけて依存症についてのリハビリのみ修了したとしても、通常の仕事をし、自立することは現実的に不可能です。こういった仲間をどう社会に戻していくかが今後のダルクの課題となってくると思いますが、栃木ダルク修了者についても、自立して家族との関係再構築をはたし、新しい生き方を楽めている仲間が全てではありません。昨年までは精神障害者自立支援を行う作業所に生活保護を受給した状態で居場所を移したり、自立が難しいので時間をかけて家族の中に戻したりするケースもありました。

そんな中、昨年7月頃から栃木県那珂川町にある星農園と関わりを持たせてもらえるようになりました。夜回り先生で有名な水谷先生が間を取り持つてくれたのですが、収穫をお手伝いさせてもらったり、野菜やお米の献品をいただいたりと友好的な関係を続けていました。そして昨今の農業ブームにのってというか、栃木ダルクで考える新しい社会復帰の形と合致したこともあり、今年度から那須と宇都宮のマネージャーを含めた4人が、来年以降の自立に向けて毎週2日農業研修に通わせてもらっています。本人たちは農業日報を付け、肉体労働を文句も言わずに頑張っていますが、私たち職員のほうが



「お米はどれくらいの広さの田んぼからどれくらい収穫できるんだろう」という疑問を持っているようなレベルですから、この先どのような形で進めていけばいいのか全く分かりませんでした。

そんな折、いつもお世話になっている国立精神・神経センターの和田先生から声をかけていただいて、富山県で農業を中心とした施設を運営している「はぐれ雲」を見学させていただけることになりました。今回は、その際のレポートを書かせていただきます。



当日は和田先生はじめ、千葉ダルク代表の白川氏と栃木ダルクから栗坪・栃原4名で参加させていただきました。富山駅までははぐれ雲代表の川又さんが迎えに来てくれていて、施設に向かいました。車中では、引き篋もりや非行少年に対する社会復

婦支援を農業を中心とした形で行っている施設で、10年以上の歴史があるという前情報をもらっていたので、成功している農業を中心とした施設を見学できることで、今後の栃木ダルクが進む方向性が少しでも見つけられたらと期待はしていましたが、実際に現地についてみると私の予想を全てが上回っていました。富山駅から20分程度の場所にあるのですが、所有している田んぼや畑の面積が広大で、自給自足の枠を超えていました。（富山県の場合、お米というのは30m×100mの田んぼで年間60kg×20袋くらい収穫できるということでした（^^）うまいかない年ばかりだよと言われましたが・・・）施設もとても大きく、スペースも広々としていましたし、定員が26名ということで栃木ダルクの那須TCよりも大規模です。畑では一通りの野菜をこちらも無農薬で栽培していましたし、他にも食堂の経営・デイサービス（高齢者）の併設など、現在のダルクでは考えられないほど多角的に経営されていました。職員用のアパートも完備されていて、農業をしながらみんなで生きていく形がしっかりと出来上がっていました。出迎えてくれた職員やメンバーの方も明るくて、何よりも若い人が多く活気にあふれていました。川又さんの人柄が反映されていて過ごしやすい場所だったと思います。一通り施設の内外を見学した後、関連施設にも連れて行ってもらい説明を受けたあと、マー جان

ルームで話を伺いました。川又さん曰く「酒とマージャンは地域になじむのに凄く役にたったよ」とのことで、酒はさすがに無理なので、個人的にも好きなマージャンがいいなあなんて思いながらお話を聞きました。



興味深い話をいくつもいただきましたが、そのいくつかをお伝えすると、はぐれ雲は男女混合で生活していること（女性は1階の部屋を使うなどの工夫をすることで殆ど問題はないそうです）。現状では男性は引き籠もりの人が多く、女性は非行が原因で施設にやってくるそうです。全国から口コミやインターネットでやってくるそうで、富山県内から入所するのは全体の1割程度だそうです。全国に30箇所程度ある若者自立塾の中でネットワークを作っているという話も興味深かったですね。家族との係り方が重要だという話でもそうですが、全体的にダルクと共感できる部分が多いように感じました。肝心の農業についてですが、とにかく地域の人達と仲良くなるのが重要だと強調されていたように思います。お米や野菜の作り方だけではなく、生きていくために必要な手助けは、みんな地域の人達がしてくれるとのこと。それと「1年や2年で上手くはいかないよ」と穏やかに話されていました。自立の方法はひとつとして、簡単にうまくいくものはないと分かっていたつもりでしたが、再確認させてもらいました。最後に川又さんが「やる人間が好きでやってないとね」と言っていました。そこは俺も負けてないなあ～なんて心の中でパワーゲームして。

今回の機会を与えられて自分なりに思ったのは、片手間じゃ難しいなということです。失礼な言い方かもしれませんが、栃木ダルクの他のスタッフに進めていってもらえば何とかなるだろうと考えていたところがありましたが、私だけではなく全員で本腰を入れて進めていかないと立ち上がっていかないと強く感じました。ただ諦めるのではなく前に進んでいこうという気持ちにさせてもらえた事にも感謝しています。何よりも素晴らしい出会いに感謝。

## 生きづらさの原因は？

処方依存のドリーム(^\_^)

自分が最初に精神安定剤を飲み始めたのは23才の時です。結婚している友人(女性)の相談に乗っているうちに不倫関係となり、後に離婚したのをきっかけに付き合いだした彼女と、同姓生活を初めて1年が立とうとしたある日、彼女に新しい彼氏が出来たので別れて欲しいと言われたのですが、理解も出来ないうちに同棲生活が終了し、自分の友人を通じて今まで2人で生活して手に入れたDVDなどを返せと催促され精神的にまいり、不眠や情緒不安定などが始まり大学病院の精神神経科で精神薬を処方して貰いました。

最初のうちは効果があり情緒不安定や、不眠などは治まっていたのですが友人との仲違いから処方薬の乱用が始まりました。

そしてある日主治医の医師に自分で薬を管理せずに母親に預けて管理してもらいなさいと言われ、今まで薬は自分で薬を管理していたし、1人で病院にも行っていたのでそんなことも1人で出来ないのかと自分を責め、こんなじゃ生きていても仕方ないと思い、大量服薬を計画して、貰ってきた薬全部飲んで死のうとしたのですが、母親に見えられ救急車で病院に搬送されました

そして1週間ぐらいつと寝ていたのですが、死んだはずの父親に呼ばれ声がる方向に行くと、急に目の前が明るくなって目が覚めましたが、なんで生きてるんだよ(^\_^)俺なんて生きてても仕方ないと腹立たしい思いをしました。母親には良かったと言われ自分のしたことの重大さが分かりました。

その後、新しい病院に通い、始めはもう薬はいらないと言って貰わないでいたのですが、被害妄想などでパニックを起こして再び精神安定剤を飲み始めました。

しばらくすると症状も落ち着き医師からも薬ではなくカウンセリングで治療しましょうと言われ精神安定剤を飲まない日々が続きました。

それからはラーメン屋に社員として就職し順調な日々だったのですが、時間帯責任者と言



う立場になり年上の社員を教えるようになったのですが、年下の自分の指示には従わず、クレームが出つづけ、店長にも怒られ、なんで俺が怒られなければならないんだと怒り、持病の喘息が悪化し、ステロイドの点滴も増え副作用イライラしたり、眠れない日々が続き、喘息のコントロールの為に再び理由を付けては処方薬を飲みはじめ量が増えていきました。

その頃から嫌なことや自分の力で解決出来ない問題や失恋をすると大量服薬するようになり自分の意思だけでは精神安定剤を止めることが出来なくなりました。

そんなある日、母親が栃木ダルクの新聞記事を見て自分にも勧め  
てきたのですが、俺は薬物依存じゃねえ(´\_`)と施設に行くことを  
断固拒否しました。



もちろんその間も失恋したり、嫌なことや逃げ出したい事があると  
大量服薬をしていましたが、知人から教えて貰ったデトックスの仕事  
が  
やりたくなったり当時付き合ってた彼女も精神疾患があったので自分がカウンセリングの資格  
を取ってカウンセリングしてあげようと思うようになり施設に行くのも良い経験になるし、このま  
まじゃまずいと思い施設への扉をあけました。

ですが、入寮して4日目に先行く仲間に自分の価値観を否定され、物を投げて暴れ出し施設  
を出てしまいました。

もちろん行くあてなどないので情けない話、母親ならどうにかしてくれると思い、甘い考えて  
連絡したのですがもちろん引き受けてくれるわけもなく、施設に戻るように説得されるので  
すが絶対嫌だと言うと、「じゃ頑張ってね」と言って電話が切れ、その瞬間にこのまま生きてい  
ても仕方ないと思い、駅で薬を大量服薬した所で意識が無くなりました。目が覚めたときには病  
院のベッドの上でしかも集中治療室らしき所において、左胸が痛いのでひょっとして心停止して  
心臓マッサージ？そんなことを考えていると、宇都宮の施設長が戻っておいでと迎えに来てく  
れました。しかし嫌だと断ったところ、「お前は1回社会でもまれるのも良い経験だから」と言わ  
れ駅まで歩き、電車で自宅のある日光へ向かいました。お金がなかったので手前の駅で降り、  
終電だったのでその駅のベンチで眠りにつきましたが、寒さで寝てられないので自宅に向か  
い、3時間30分ぐらい歩いて自宅に着きました。

すると、母親が雨戸を開けて「何できたの？」と聞かれたので歩いてきたといい車の鍵を貰  
おうとしたのですがもらえず、お願いだから施設に戻ってと涙をながしながら言われたのですが、  
聞く耳持たず嫌だと言い、話は一旦終わるのですが、これから行くあてもないしこのままじゃ  
寒さで凍え死ぬか飢え死にしかないので、母親からも薬止めたら帰ってきてても良いからと言  
われ宇都宮の施設長にその事を伝えると、「うちは最低15ヶ月は施設にいるんだよ。だからちゃ  
んとプログラムを受ける気になったらまた電話してきな」と言われ一旦電話を切って考えまし  
た。そして、だったら真面目にプログラム受けると母親に言い、とりあえず施設に戻ろうと再び  
電話をし施設に戻ってきました。

精神安定剤もすべて止めて5ヶ月が過ぎ、施設でもサポートと言う役割につきました。自分  
の出来ない事があると精神安定剤が欲しくなりますが、来月で10ヶ月を迎えるのでこれから  
も欲求に負けることなくクリーンタイムを伸ばしていこうと思います。ありがとうございました(^^)

7月予定表

- 14日 河内中学校講演
- 14日 アルコール関連問題研究会
- 14日 ガイドポスト
- 15日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 16日 総務省打ち合わせ
- 17日 喜連川社会復帰促進センター  
薬物依存離脱指導
- 18日 栃木県薬物再乱用防止教育事業
- 22日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 24日 喜連川社会復帰促進センター  
薬物依存離脱指導
- 26日 宇都宮家族会
- 28日 77イノベーション養成講座
- 29日 黒羽刑務所覚醒剤教育
- 31日 喜連川社会復帰促進センター  
薬物依存離脱指導

8月予定表

- 1日 ウクレレフェスタ(カホン発表)
- 5日 喜連川社会復帰促進センター  
薬物依存離脱指導
- 7日 下都賀地区養護教諭講演
- 7日 薬物依存症フォーラム講演
- 8日 CAP講演
- 8日 栃木県薬物再乱用防止教育事業
- 12日 喜連川少年院講演
- 22日 栃木県薬物再乱用防止教育事業
- 30日 宇都宮家族会

6月献金を下さった方々

栗坪孝雄様、高橋正子様、藤ノ木富有様  
匿名5名様

6月献品を下さった方々

大串徹様、星一明様、松本昌典様、麦倉正夫様  
山口絵美様 匿名5名様

編集

NPO 栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com>

Eメール: [nesm@t-darc.com](mailto:nesm@t-darc.com)

発行所

郵便番号一五七〇〇七三 東京都世田谷区砧六一二六二二  
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円